

1. 新しい動き インテグラル・ジャパン

総合的生活実践のキットの販売

生活実践の本が9月に英語版が発売

新たな段階に入ったケン・ウィルバー＝絶えず進化するウィルバーの姿

ウィルバーの新しさ 共同研究者・共同実践者の存在

特定の団体組織ではない。広範囲の人に共感。

2. インテグラルの3つの柱が明確になり、統合理論だけでなく、実践論が
確立されて、これから実りが生まれてくる時期に入っている。

① 人間・世界を統合的に捉える理論。

② 個人成長・発達を促す実践法＝インテグラル・ライフ・プラクティス

③ インテグラル理論を応用して、現代の問題を具体的に解決する実践法
＝インテグラル・アプローチ

3. ケン・ウィルバーにおける大きな流れと私の惹かれたところ、あるいは不明なところ

① 出会い。新書 トランスパーソナル心理学入門

優れていると感じた人はウィルバーとミンデル

② 1期

惹きつけられた考え

ウィルバー的思考（折口信夫は人間の思考能力を類化性能と別化性能に分けている。ウィルバーは類化性能が非常にすぐれている）

1. 異質なものを心の発達といった視点で共通の物差し（スペクトル）で見る。

『意識のスペクトル』

鮮やかな本。つながり共通点

西洋の心理学と東洋の瞑想をスペクトルとして位置づける。文化横断的思考。

2. 前個と超個の違い。

自我の形成と確立の大切さ

3. 1とも関係するが、たこつぼ的思考から脱却している。またそれぞれの専門領域をえて共通の概念の使い方がきちんとしていて明快である。読者の立場で考えると、頭がクリアに整理される感覚がある。

サーカーとの比較

わからない点

理論と実践のかかわりがよく見えない。そのため壮大なる理論に幻惑されて、知的理だけに終わる危険性もある。

ウィルバーの瞑想体験がどのようなものか。禅やチベット仏教に共感して、実践していることを知るが、それ以上はわからない。実践面の姿がはっきりしない。

彼がどこに立っているのかわからない。博学でとてつもない統合能力があるが、彼の間の匂いがあまりしない。

2期

①理論面 『万物の歴史』『進化の構造』

新しいウィルバー。大きな発展がある。意識の発達についてウィルバーの中心的なテーマがあり、トランスパーソナル心理学の枠内にあった。ところが、この時期に来ると、物の歴史という言葉に象徴されるように、すべてのことを取り扱い、その発展の姿を歴的に捉えるというとてつもなく大きなスケールを獲得している。

ウィルバーのことば

「万物の理論において大きな原則がある。誰もが正しいということだ。私を含む誰もが理のある重要な部分を持っており、そうした部分のすべては尊重され、大事にされより雅で雄大で、そして慈悲深い抱擁、真正の万物の理論に包み込まれる必要がある。」

中心概念

4象限

ホロン

人間発達論。病理。

統合的志向性＝インテグラルがはっきりする。

全象限全レベル

②人間的魅力

グレース&グリット

妻であるトレヤとの闘病生活の苦悩が描かれている。親近感。文章も変わってきたよう思う。

③実践面

新しい提案がある。

日常生活実践

リトリートのときだけや変性意識状態を追い求めるのではなく、毎日の生活の中でどう実勢するか。

基本的考え

人間の心身の主要なレベルと次元をすべて同時に鍛練すること。多様な潜在力を開示す統合的努力。

3期

インテグラルの3つの柱が明確になり、統合理論だけでなく、実践論が確立されて、これから実りが生まれてくる時期に入っている。

- ① 人間・世界を統合的に捉える理論。
- ② 個人成長・発達を促す実践法＝インテグラル・ライフ・プラクティス
- ③ インテグラル理論を応用して、現代の問題を具体的に解決する実践法＝インテグラル・アプローチ

「重大な飛躍を促進できるかは、第一には統合的なヴィジョンが必要であり、第二には統合的な実践が必要だということである。総合的なヴィジョンは洞察をもたらしてくれる自分自身のより深く広い開けに直面させてくれる。統合的な実践は抽象的な理念や観念とどまらず具体的なかたちに定着させてくれる」

- ① 人間・世界を統合的に捉える理論。

統合作動システム（IOS）として位置付け

ア. 4象限ホロンの構造をより統合的に5つの要素として認識する。

象限 レベル ライン ステート タイプ

ステート 一時的 レベル 永続的

ライン 多重知性 例 認識的発達は優れている。感情的発達は未発達。

サイコグラフ 現在どのようなものであるか。さらなる統合的な自己イメージタイプ レベルやラインや状態と結びつけば非常に有効

野口整体 10の類型 エニアグラム9つの類型、 男 自律性 女 交流性

イ. 性格付け・どう活用するか。

中立的枠組み

広範で実りの多い対話が可能

ウ. 叡知の伝統と近代思想とポストモダン思想の三つの統合地図づくり。ポストモダン 大きく組み入れている。

②ではウィルバー独自の瞑想やこころの発達の仕方を生み出している。

統合的生活

「霊性に関する本のほとんどは、現実の生活から離れた霊的な生活についての論文でる」

「霊性を別扱いにしないで、日々の仕事、遊び、病気、セックス、お金、家族のまっただなかに置くこと」

③では環境や医療や援助の仕方などに応用。最近ではビジネスにも。

具体例1 医療

代替医療

正統的医療 手術、薬

内面的状態

病気は身体的原因によって起こるイメージ療法 アフォーメーション 文化的価値

治療手段を供給できるシステム

世界観 ・ 病気観 (エイズ、癌)

保険 意志と患者のコミュニケーション

具体例2 ユニセフの全象限、全レベル、全ラインアプローチ

いままでのユニセフの活動は右側象限主導型

1950年代 疾病に対するキャンペーン 右上象限に固定。計測可能なもの

1960年代 発展の十年。強調点は右下象限

1970年代 オルタナティブの時代。右象限のオルタナティブ

2000年代 総合アプローチの時代 内面と文化という左象限をより探究するもの

発達的な探究のポイントは人々を分類、整理したり、優劣を判定することにあるのではなく、まだ活用されていない可能な潜在力のガイドラインとして作用することにある。